



ソフトウェアテストの学習に役立つ JSTQBのシラバスと試験のご紹介

2025.11.13-14 Agile Japan 2025

※参考文献・引用文献は本資料作成時点（2025年10月～11月上旬）の情報です

こんにちは、JSTQBです



JSTQB = “Japan Software Testing Qualifications Board”

NPO法人 ソフトウェアテスト技術振興協会（ASTER:Association of Software Test EngineerRing）によって運営され、ソフトウェアテストのシラバス公開やソフトウェアテスト技術者資格認定をしています。

みなさん、ソフトウェアテスト、していますか？

恐らく、本日の参加者の皆さんの中には、アジャイル開発チームや関連チームの一員としてソフトウェアテスト（以下、テスト）に関わっている方がいらっしゃるのでは、と思います。

テストケースの
検討

探索的テスト

テスト結果を受け
欠陥修正

テスト結果を見て
リリース判定

...

テストは何のため？

よくあるテストの目的は、例えば…

要件、ユースケース、設計、およびコードなどの作業成果物を評価する

故障を引き起こし、欠陥を発見する

ステークホルダーに根拠ある判断をしてもらうための情報を提供する

テスト対象の品質に対する信頼を積み上げる

テストを行うと品質についてフィードバックが得られ、改善や判断のインプットが得られると言えるでしょう。

テストを上手に行うことは重篤な欠陥の対応や早期リリースに役立ち、顧客やユーザーからのフィードバックを早く効果的に得ることに繋がります。

テスト目的の例は https://jstqb.jp/dl/JSTQB-SyllabusFoundation_VersionV40.J02.pdf 1.1.1 テスト目的より引用

効率的・効果的にテストをするのは割と大変

テストの大変さの一因として、テストの効率や効果を支えるトピックの多さがあります。

ホワイトボックス テスト技法	ブラックボックス テスト技法	テスト計画	シフトレフト
テスト戦略	テストレベル	テストタイプ	テストツール
静的テスト	リスクベースド テスト	品質特性	...

**このようなテスト技術のトピックは国際的な団体ISTQBにより
シラバスにまとめられ公開されています**

テストのシラバス、日本語で読めます

ISTQBのシラバスはWEBサイトから入手できますが英語で書かれています。
私たちJSTQBでは、そのシラバスを日本語に翻訳してWEBサイトで公開しています。

「JSTQB」でWEB検索しJSTQBの
WEBサイトを開いたら向かって左上
「シラバス（学習事項）・用語集」
をクリック、または
<https://jstqb.jp/syllabus.html>



画像の引用元：<https://jstqb.jp/syllabus.html>

シラバスを使って
学びたい方向け

試験で実力を確認
したい方向け

公開中の日本語版シラバスの概要

シラバスはテストの基本から分野別まで

→ シラバス（学習事項）

→ Core Foundation

- FLシラバス

→ Core Advanced

- テストマネジメント（ALTM）

- テストアナリスト（ALTA）・テクニカルテストアナリスト（ALTTA）

→ Specialist

- FLシラバス（Specialist） AIテスト

- FLシラバス（Specialist） 自動車ソフトウェアテスト担当者

- FLシラバス（Specialist） モバイルアプリケーションテスト担当者

- FLシラバス（Specialist） 性能テスト担当者

- FLシラバス（Specialist） ゲームテスト

- FLシラバス（Specialist） モデルベースドテスト担当者

- ALシラバス（Specialist） テスト自動化エンジニア

→ Agile

Advanced Level

-ALシラバス アジャイルテクニカルテスト担当者

Foundation Level

- FLシラバス（Extension） アジャイルテスト担当者

日本語訳が公開されているシラバスは13、
PDFでダウンロード可能 (2025年11月3日現在)

テストの初学者へのお勧めは
まずは「Core Foundation FLシラバス」
（FLは Foundation Level）

同じページに用語集（日本語版）への
リンクあり

次ページからアジャイルテストと関係が深い
シラバスを少しご紹介します。名前に「テスト
担当者」とありますが、テスト専任でなくても
テストに関わる際に参考にできるシラバスです。

画像の引用元：<https://jstqb.jp/syllabus.html>

アジャイルテストに関するシラバス

名前にアジャイルとつく 公開中のシラバス

- [FLシラバス（Extension）アジャイルテスト担当者](#)
- [ALシラバス アジャイルテクニカルテスト担当者](#)

Business Outcomesの例

- Collaborate in a cross-functional Agile team being familiar with principles and basic practices of Agile software development
- Apply relevant methods and techniques for testing in an Agile project



Business Outcomesの例

- Define testable requirements within Agile Team
- Support continuous integration in an Agile Team
- Support Agile Team in continuous delivery and deployment

Business Outcomesの引用元：

<https://istqb.org/certifications/certified-tester-foundation-level-agile-tester-ctfl-at/>

<https://istqb.org/certifications/certified-tester-advanced-level-agile-technical-tester-ctal-att/>

アジャイルテストに関するシラバス

名前にアジャイルとつく 公開中のシラバス

- [FLシラバス \(Extension\) アジャイルテスト担当者](#)
- [ALシラバス アジャイルテクニカルテスト担当者](#)

目次

1. アジャイルソフトウェア開発
 - 1.1 アジャイルソフトウェア開発の基本
 - 1.2 アジャイルアプローチの特徴
2. アジャイルテストの基本的な原則、プラクティスおよびプロセス
 - 2.1 テストにおける従来型アプローチとアジャイルアプローチの違い
 - 2.2 アジャイルプロジェクトでのテストステータス
 - 2.3 アジャイルチームにおけるテスト担当者の役割とスキル
3. アジャイルテストの方法、技法、およびツール
 - 3.1 アジャイルテストの方法
 - 3.2 品質リスクの評価とテスト工数の見積り
 - 3.3 アジャイルプロジェクトの技法
 - 3.4 アジャイルプロジェクトにおけるツール

「学習の目的」の例

**早期かつ頻繁なフィードバックの
利点を理解する。**

**複数のイテレーション間でテストが
進化するプロセスを説明し、
アジャイルプロジェクトで回帰リス
クをマネジメントするためにテスト
自動化が重要である理由を説明する。**

**アジャイルプロジェクトのテストを
サポートするために、探索的テスト
を実行する。**

目次と学習の目的は https://jstqb.jp/dl/JSTQB-SyllabusFoundation-AgileExt_Version2014.J02.pdfより引用

アジャイルテストに関するシラバス

3.3より、探索的テストの記載

例えば、経験が少ないメンバーの学習資料に

探索的テストでは、準備済みのテストチャートに従って、テスト設計とテスト実行を同時に行う。時間の制限が厳しいテストセッションの間、テストチャートは、カバーすべきテスト条件を提供する。**探索的テストでは、直近のテストの結果が、次のテストの指針となる。**

(略)

テスト時には、一連のヒューリスティックを適用できる。ヒューリスティックは、テストの実行方法と結果の評価方法についてテスト担当者をガイドする [Hendrickson]。たとえば、次のようなものがある。

- ・ **境界**
- ・ **CRUD** (作成 (Create) 、読み取り (Read) 、更新 (Update) 、削除 (Delete))
- ・ **構成のバリエーション**
- ・ **中断** (ログオフ、シャットダウン、再起動など)

濃い黄色線枠内は https://jstqb.jp/dl/JSTQB-SyllabusFoundation-AgileExt_Version2014.J02.pdf

3.3.4 探索的テストとアジャイルテスト より引用、本資料作成者にて一部太字・青字に変更した

アジャイルテストに関するシラバス

名前にアジャイルとつく 公開中のシラバス

- [FLシラバス \(Extension\) アジャイルテスト担当者](#)
- [ALシラバス アジャイルテクニカルテスト担当者](#)

目次

- 1 要求工学
 - 1.1 要求工学技法
- 2 アジャイルにおけるテスト
 - 2.1 アジャイルソフトウェア開発とテスト
 - 2.2 アジャイルにおける経験ベースのテスト
 - 2.3 コード品質の側面
- 3 テスト自動化
 - 3.1 テスト自動化技法
 - 3.2 自動化のレベル
- 4 デプロイメントとデリバリー
 - 4.1 継続的インテグレーション、継続的テスト、継続的デリバリー
 - 4.2 サービスの仮想化

「学習の目的」の例

要求工学とテスト技術を用いて、与えられたユーザーストーリーに対してテスト可能な受け入れ基準を作成し、評価する。

アジャイルプロジェクトのプロダクトバックログを分析し、受け入れテスト駆動開発(ATDD)を導入する方法を決定する。

デプロイメントのスピードに追従するために、必要なテスト自動化のレベルを決定する際に考慮すべき要素を理解する。

目次と学習の目的は https://jstqb.jp/dl/JSTQB-Syllabus.Advanced_ATT_Version1.1.J01.pdf より引用

アジャイルテストに関するシラバス

1.1より、ストーリーマッピングを使ってテスト担当者ができることの記載

例えば、ストーリーマッピングの活用の検討材料に

- ・ **ストーリーマッピング**：ストーリーマッピング（またはユーザーストーリーマッピング）は、2つの独立した次元を使用してユーザーストーリーを並べることで構成される技法である。マップの横軸は各ユーザーストーリーの優先順位を表し、縦軸は実装の複雑さを表す。**ストーリーマッピングを使うことで、テスト担当者は以下のことができる。**
 - **スモークテストを抽出するために、システムの最も基本的な機能を決定する**
 - **テストの優先順位を決めるために、機能の順序づけを行う**
 - **システムのスコープを可視化する**
 - **各ユーザーストーリーのリスクレベルを決定する**

濃い黄色線枠内は https://jstqb.jp/dl/JSTQB-Syllabus.Advanced_ATT_Version1.1.J01.pdf
1.1.1 要求工学技法を用いたユーザーストーリーやエピックの分析 より引用、本資料作成者にて一部太字・青字に変更した

アジャイルテストに関するシラバス

名前にアジャイルとつく
公開中のシラバス

- [FLシラバス \(Extension\) アジャイルテスト担当者](#)
- [ALシラバス アジャイルテクニカルテスト担当者](#)

その他のシラバスでも
アジャイルについて言及

- [FL](#)
「1.4.5 テストの役割」や「2.1.1 ソフトウェア開発ライフサイクルがテストに与える影響」などでアジャイルについて言及。見積方法として、プランニングポーカーも。
- [テストアナリスト \(ALTA\)](#)
「1.3 テスト分析」や「1.4.2 テストケースの設計」などでアジャイルが登場。
- [テストマネジメント \(ALTM\)](#)
- [テクニカルテストアナリスト \(ALTTA\)](#)

JSTQBシラバスの活用をお勧めしたい理由

**テストの効率や効果を支える多様なトピックを学べる、
より深く学ぶ際の入り口としても活用できる**

**WEBサイトから無償で入手でき、自習はもちろん
チームや有志の勉強会の学習教材としても利用しやすい**

**大本は英語で書かれたISTQBシラバスであり、
国内外の別組織の人とも同じ用語や概念で会話しやすい**

シラバスを使って
学びたい方向け

試験で実力を確認
したい方向け

認定資格を取得する方法

受験したい方は申し込みはウェブから

シラバスを読むだけではなく、試験合格という形で学習成果を示すこともできます

日本語で受験できる試験(2025年11月3日現在)

Foundation level試験(CTFL)

Advanced Level テストマネージャ(CTAL-TM)

Advanced Level テストアナリスト(CTAL-TA)

Foundation Level 自動車ソフトウェアテスト担当者(CT-AuT)

テスト自動化エンジニア試験(CT-TAE)

Foundation Level Extension シラバス アジャイルテスト担当者(AT) ※ATは期間限定

ご興味がある方は以下にアクセスしてみてください

- [JSTQBのWEBサイトの「**JSTQB認定テスト技術者資格試験実施要領**」](#)
- [一般財団法人日本科学技術連盟](#)
- [ピアソンVUE](#)

どのような試験？

日本で取得できる 国際資格

- 日本で取得できる**国際資格**。ISTQBに加盟する各認定組織が発行する資格は、相互認証が行えます

希望日にCBT方式 で受験可能

- CBT(コンピュータ・ベースト・テスト)で受験可能、**テストセンターは47都道府県にあり、受験日は選択できます**
- 組織単位で受験する場合、運営パートナーの日科技連が提供するペーパー・ベースト・テストも利用可能（条件あり）

実績あり

- 総受験者：55,269名、総合格者：30,696名
（2025年10月7日現在）
- IPAによるITスキル標準（ITSS）のキャリアフレームワークと認定試験・資格にJSTQBの一部試験が記載されています

現在受験可能な試験は、いずれも**無料のシラバスのみで学習**できます

一部試験は更に、有償のトレーニングやeラーニングの受講、書籍を通して学ぶこともできます。
以下は、公認研修・公認書籍です（2025年11月3日現在）。

一般財団法人 日本科学技術連盟

[JSTQB認定ソフトウェアテスト技術者-Foundation Levelトレーニングコース](#)

バルテス株式会社

[Advanced Level Test Manager eラーニング講座](#)

翔泳社

[ソフトウェアテスト教科書 JSTQB Foundation 第5版 シラバス2023対応](#)

JSTQBについての情報の入手方法

WEBサイトやXで発信中、ぜひアクセスを

シラバスはWEB検索、または
<https://jstqb.jp/index.html> にアクセスして
 「シラバス（学習事項）・用語集」をクリック



Xの
 @JSTQB_PR
 で発信中



Agile Japan2025当日は会場にブースを設けておりますので、ぜひお越しください。